

**Certified
Public
Accountant**



目指せ、公認会計士!

—公認会計士試験にチャレンジしてみませんか—





公認会計士とは ——“会計”及び“監査”の専門家

公認会計士の使命

公認会計士は、国家試験である公認会計士試験に合格した者だけに与えられる資格であり、公認会計士法にその使命等が規定されています。

公認会計士法第1条

公認会計士は、監査及び会計の専門家として、独立した立場において、財務書類その他の財務に関する情報の信頼性を確保することにより、会社等の公正な事業活動、投資者及び債権者の保護等を図り、もって国民経済の健全な発展に寄与することを使命とする。

会計なくして経済なし

公認会計士は、グローバル化が急速に進む日本経済の健全な発展のために、監査人、コンサルタント、一般事業会社等に所属する組織内会計士など、経済社会の様々な局面で、極めて重要な役割を果たすべく幅広く活躍しています。

MISSION

資本市場の番人として、企業等の財務情報の信頼性を確保し、投資家等を保護。国民経済の健全な発展に寄与。

- ✓ 企業が作成する財務書類の監査
 - ・ 情報技術の積極的な活用
 - ・ 国際化、デジタル化に対応



PROFESSIONAL

会計・監査の専門家として、高度な専門知識を活かし、多様なニーズに応じて専門的な視点から助言・指導を行う。

- ✓ IPO (株式新規上場) 支援
- ✓ M&A (企業の合併・買収)
- ✓ 組織再編
- ✓ 税務業務

GLOBAL

金融・資本市場のグローバル化、企業の海外展開等に伴い、活躍のフィールドは世界に広がっている。

- ✓ グローバル経営戦略の策定
- ✓ 海外子会社を含むグループ決算
- ✓ IFRS (国際財務報告基準) への対応



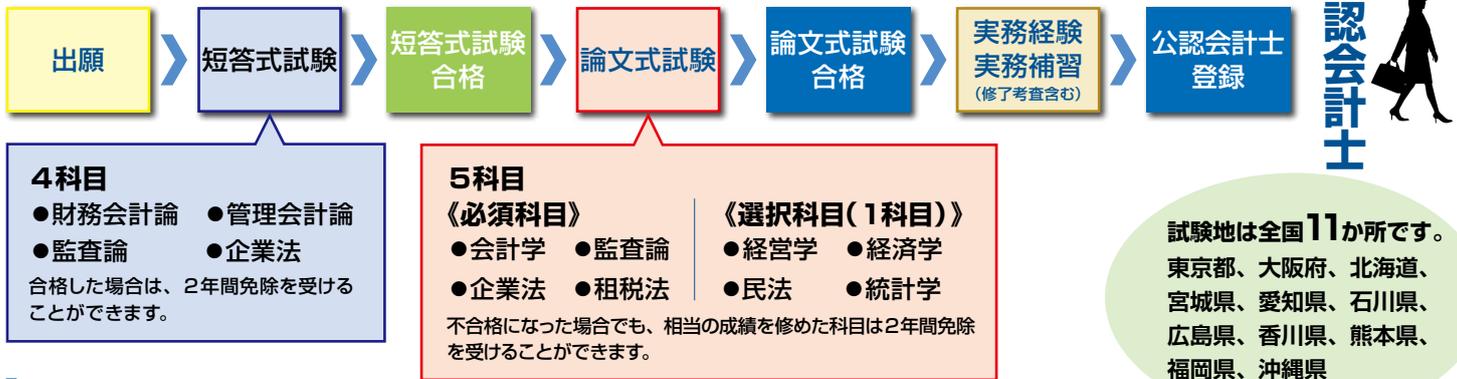
公認会計士試験について

令和6年公認会計士試験実施スケジュール

インターネット出願が便利です!		第I回短答式試験	第II回短答式試験
願書受付	インターネット	令和5年8月25日 ～9月14日	令和6年2月上旬 ～2月下旬
	書面(郵送)	令和5年8月25日 ～9月8日	令和6年2月上旬 ～2月中旬
短答式試験		令和5年12月10日(日)	令和6年5月26日(日)
短答式試験合格発表		令和6年1月中旬	令和6年6月下旬
論文式試験		令和6年8月16日(金)～8月18日(日)	
論文式試験合格発表		令和6年11月中旬	

具体的な日程については、令和5年6月公表予定。

公認会計士試験の概要



試験 Q&A

Q 受験に必要な資格や要件はありますか？

受験に必要な資格や要件はありません。年齢や性別、学歴等にかかわらず、どなたでも受験できます。

Q 短答式試験の第I回と第II回で違いはありますか？

原則として違いはありません。学習スケジュールに応じて受験できます。なお、第I回短答式試験を受験する場合は、不合格になった場合でも第II回短答式試験を受験でき、論文式試験を受験できる機会が広がります。

Q 企業等における実務経験者や専門資格者に対する科目免除はありますか？

一定の要件を満たした実務経験者や税理士等の専門資格者の方は、試験科目の一部の免除を受けることができます。

Q 試験合格後の実務経験・実務補習について教えてください。

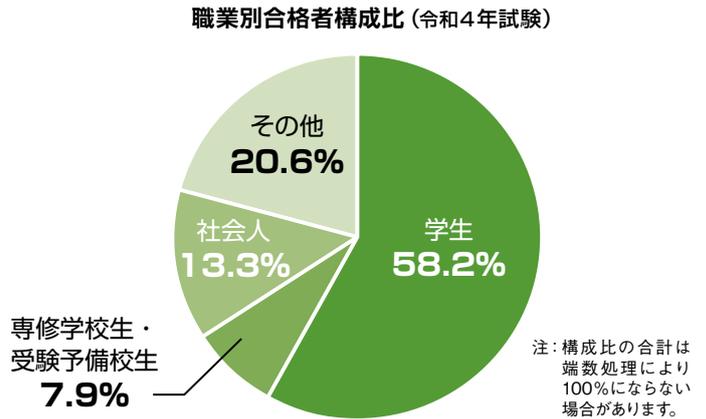
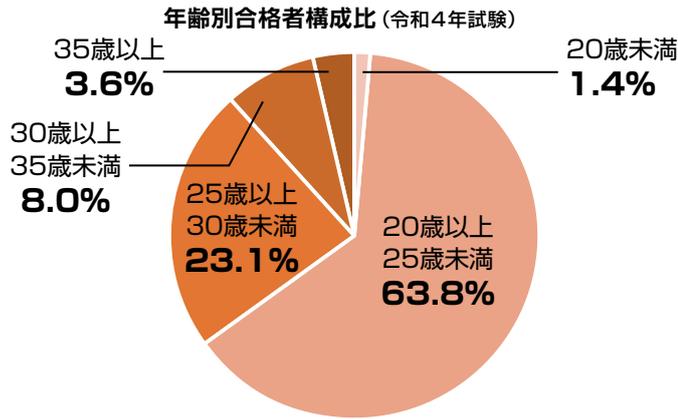
公認会計士試験に合格後、すぐに公認会計士になれるわけではありません。監査法人や事業会社等において、3年以上の実務経験を積み、公認会計士となるのに必要な技能を取得するための3年程度の実務補習を修了することで、公認会計士として登録し業務を営むことができます。

このほかにも、試験についてのQ&Aは審査会ウェブサイトに掲載しています。

合格者データ

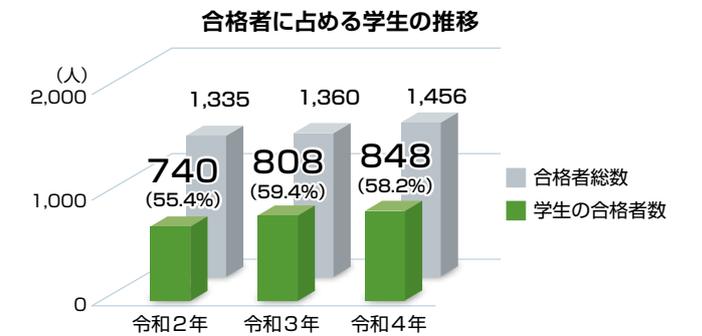
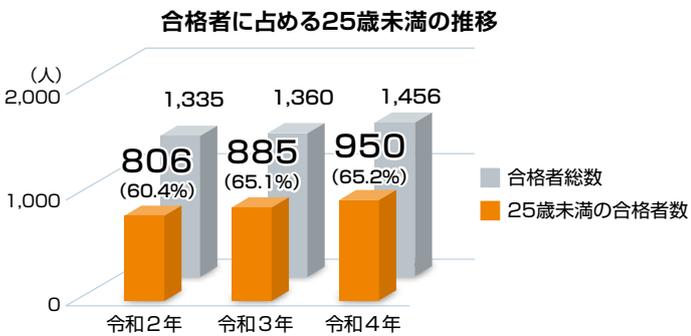
年 別	出願者数 A	論文式受験者数 B	合格者数 C	合格率	
				C/A	C/B
令和2年	13,231人	3,719人	1,335人	10.1%	35.9%
令和3年	14,192人	3,992人	1,360人	9.6%	34.1%
令和4年	18,789人	4,067人	1,456人	7.7%	35.8%

ここ数年の公認会計士試験の出願者数及び合格者数は増加が続いている状況です。
令和4年試験では、合格者数が11年ぶりに1,400人を超える高水準となりました。



25歳未満の合格者が全体の6割を超えている一方で、社会人を中心とした30歳以上の合格者も毎年1割程度を占めています。
なお、合格者の最低年齢は17歳、最高年齢は58歳であり、幅広い年齢層の方が合格しています。

合格者の半数以上を学生が占めています。
大学生の場合、経済学部、商学部、経営学部の合格者が多いですが、法学部や理系学部等の方も合格しています。
社会人の場合、経理経験のある方や会計とは全く関連のない公務員の方など、様々な経歴の方が合格しています。



ここ数年の25歳未満の合格者数は増加傾向が認められ、「合格者の若年化」が進んでいる状況です。
令和4年試験の合格者の平均年齢は24.4歳であり、これまでの公認会計士試験において最も低い水準でした。

ここ数年の学生の合格者数も増加傾向が認められます。
学生の中には、一般事業会社への就職活動を行っている方、ゼミ・サークル等の活動へ積極的に取り組んでいる方も合格しています。



さわ たいせい
澤 太誠さん
令和元年試験合格
監査法人勤務

先輩からのメッセージ—AIやITを活用した未来の監査に向けて日々挑戦しています—

●公認会計士を目指したきっかけを教えてください。

大学で受講した法学系講義の教授が会計専門職大学院で企業法を担当されていて、公認会計士試験に関する内容や合格後の働き方などについて、様々なお話を伺う中で興味を持ったことがきっかけです。
もともと株式投資が好きで、企業の株主総会招集通知や有価証券報告書を読むことにも興味があり、様々な企業のビジネスを理解できる監査の仕事は、好奇心旺盛な自分の性格にも合っていると感じました。

●現在の業務内容について教えてください。

私は会計監査事業部とIT監査部を兼務し、会計+ITの両方のスキルを持った二刀流会計士を目指すべく、双方の業務に関与しています。

これからの時代はAIやデータを活用した監査が広まると思いますが、その先取りとしてビジネスにおけるIT活用状況の理解やデータ分析手法の設計、監査手続効率化に向けたツール活用等の業務に従事しているので、未来の監査の実現に近づいていることを実感でき、とてもやりがいを感じています。



公認会計士 Q&A

Q 公認会計士として、どのような活躍の場がありますか？

経済社会のグローバル化、多様化、複雑化が進展する中で、会計・監査の専門家としての公認会計士の果たす役割の重要性は増えています。

監査法人における監査業務については、上場会社などの大会社の監査に加え、学校法人、独立行政法人、社会福祉法人や医療法人といった非営利法人に対する監査が増えています。

また、近年では監査法人に限らず、その高い専門性を活かして、一般事業会社、コンサルティング会社、国及び地方公共団体等で活躍する機会が増えています。

さらに、社外取締役・社外監査役として、コーポレート・ガバナンスに携わる方も増えています。

Q AIの発展により、公認会計士の業務にどのような影響がありますか？

監査業務においては、AIやITを活用し、取引データの加工や集計等の定型作業の自動化や、財務情報のデータ分析等を行うことで、業務の効率化や監査品質の向上が図られています。

しかしながら、監査業務は定型的な業務だけではなく、専門家としての判断を必要とする業務や経営者等とのコミュニケーションが含まれています。これらの業務がAIに全面的に代替されるとは考えにくく、公認会計士はこれらの業務に注力することが期待されています。

Q テレワークなどの多様な働き方はできますか？

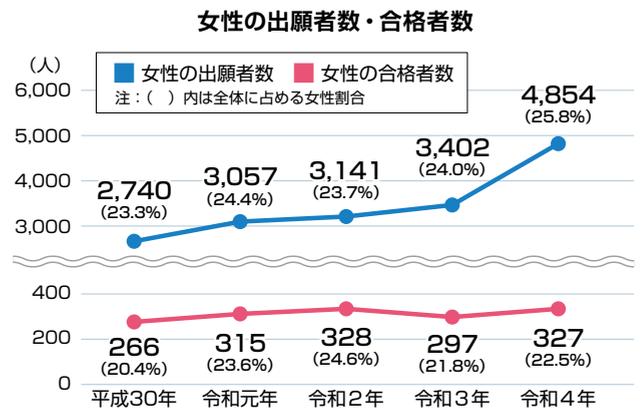
監査法人では、新型コロナウイルス感染症の拡大を一つの契機として、テレワークやオンライン会議の実施、ペーパーレスの推進など、新しい働き方のスタイルを積極的に取り入れています。

また、ITの活用により、監査事務所や在宅において監査業務を行う「リモート監査」を実施するなど、監査の手法を変革して柔軟に対応している監査法人等が増えています。

Q 女性が活躍できる職業ですか？

公認会計士は、会計・監査の専門家として、業務面でも給与面でも男女の区別はなく、やりがいを持って働くことができます。資格と経験があればいつでも復職でき、ライフプランに合わせて、生涯、幅広く活躍できます。

こうした中、女性の出願者及び合格者は増加傾向が認められ、近年では合格者の2割以上を女性が占めています。また、令和4年試験では、出願者のうち女性の占める割合が過去最高(25.8%)となりました。



まつだ さとこ
松田 聡子さん
平成17年試験合格
監査法人勤務

先輩からのメッセージ —仕事と家庭を両立しながらキャリア形成できます—

●現在の業務のやりがいと将来の夢(仕事に関する夢、キャリアプラン)を教えてください。

「社会のため、人のために貢献できる仕事をしたい。」という想いから公認会計士になったこともあり、一番やりがいを感じる時は、私の助言・指導がクライアントの役に立ち感謝される瞬間です。また、監査業務はチームで取り組むため、チームで分担しながら目標を達成していく過程・瞬間もとてもやりがいを感じます。激変する環境下、新しいIT等を活用しながら、チーム一体となって、より良い社会のため貢献していきたいと考えています。

●仕事とプライベートのバランスはどのようにして取っていますか？

子どもを持つてからは、仕事もプライベートもどちらも大切な時間であり、私になくはならないものです。そのため、ワークライフバランスを常に意識して24時間タイムマネジメントを考えています。優先順位をつけて業務に取り組むとともに、メリハリをつけてオンとオフの切替えをしています。時間は限られていますが、質を高め、仕事も子どもとのプライベートも濃厚な時間を過ごすことで、相乗効果となり、両者ともに充実度・満足度が高まっています。

IV

先輩からのメッセージ



大学生生活と両立して合格

① 公認会計士を目指したきっかけを教えてください。

進路に悩んでいた高校2年生の時、父から公認会計士という資格について教えてもらったことがきっかけです。初めて聞く資格にとってもワクワクし、仕事内容や試験範囲など、公認会計士に関する情報をたくさん集めました。また、公認会計士として活躍されている方々の話を聞くたびに「公認会計士として活躍したい!」と思うようになり、大学は商学部に進学し、大学入学とともに公認会計士試験の勉強を始めました。

② 大学生生活と試験勉強を両立させたコツはありますか？

公認会計士試験が難しいと感じるところは、試験範囲が広いことではないでしょうか。実際、試験科目は多いと思いますし、苦手科目の勉強には特に苦勞をしました。ただ、苦勞をした分、苦手科目の問題を解けるようになったときや、いい点数を取れたときはとても嬉しかったです。

大学生活は、それまでの学生時代と比べると、自分で時間の使い方を自由に選べるようになります。私は、大学の講義の合間など、空いた時間はなるべく試験勉強に使うようにしていました。とはいえ、休息も大事ですので2週間に1日は勉強をしない日を作って、大学の友人たちと息抜きをしていました。

③ 現在の業務内容について教えてください。

現在は監査法人の資産運用監査部に所属し、投資ファンドの監査業務に携わっています。投資ファンドは、一般事業会社と比べると、財務内容がシンプルなため、私一人で財務書類に記載されている金額の確認をしています。そのおかげで1年目から監査業務の全体像をつかむことができました。また、監査チームも少人数のことが多いため、クライアントとメールや電話会議で直接やり取りをする機会もあり、日々刺激的な経験をさせてもらっています。

④ 現在の業務のやりがいと将来の夢(仕事に関する夢、キャリアプラン)を教えてください。

1年目からプロフェッショナルとして仕事をさせてもらえることにとてもやりがいを感じています。まだまだ監査経験や、ビジネスに対する知識は少ないですが、先輩会計士の近くで働ける環境があり、日々新しい知識や経験の機会を得ることができて、とても刺激的だと感じています。資産運用業界の今後の成長を支えられるような存在になれるよう自分自身もスキルアップしていきたいです。

⑤ 公認会計士を目指す方々に一言お願いいたします。

公認会計士は監査だけではなく、会計監査の知識を活かしてアドバイザリー業務を行ったり、CEO/CFOとして実際にビジネスをしたりと、幅広い活躍の場がある資格だと思います。公認会計士試験の勉強はとて大変だとは思いますが、将来自分の活躍する姿をイメージしながら合格に向けて頑張ってください!

社会人として働きながら合格

① 公認会計士を目指したきっかけを教えてください。

新卒で入社した一般事業会社で財務・経理課に配属されたことがきっかけです。簿記の勉強から始め、日商簿記検定2級、1級と勉強を進めていくうちに、より広く知識を身に付けたいと思うようになりました。また、自分の軸となる強みを持つことで、将来の選択肢を広げられると考えたため、公認会計士試験に挑戦することを決めました。

② 試験に向けてどのように勉強をされましたか？

基本的に公認会計士講座を取扱う予備校のカリキュラムに沿って勉強を続けました。働きながら勉強を続けるという環境下では、「習慣化」と「効率化」を特に意識していました。具体的には、①移動中・昼休み等の隙間時間を活用する、②やる気に頼らず勉強を習慣化し、ムラを作らない、③教材を絞り、重要度に応じて強弱をつけて勉強する、という3つを特に心掛けていました。

③ これまでのキャリアと、今後のキャリアプランについて教えてください。

財務・経理課で働きつつ、無事に公認会計士試験への合格を果たした後、監査法人へ転職することを決意しました。現在、私は監査法人で監査業務に従事しています。監査を受ける側から監査を行う側へと立場が逆転したわけですが、監査を行うに当たり、一般事業会社で働いた経験を活かす機会が非常に多いことに気が付きました。監査を受ける側の視点を持っていると、会社内における部署間のやりとりや財務書類が出来上がるプロセスの全体像を掴めるため、監査の勘所を押さえることに役立つと思います。将来的には、一般事業会社と監査法人の良い点を取り入れて、両者の橋渡しができる存在になりたいです。

④ 公認会計士を目指す方々に一言お願いいたします。

私自身は一つの会社に勤めるだけでは得られない経験や知識を身に付けたいという思いから公認会計士を目指しました。働きながらの試験勉強は体力的にも精神的にもハードな期間ではありましたが、その分、自信を持って努力したと言える期間でもあります。仕事と並行して勉強を続けられたことや、キャリアの選択肢を自らの努力で広げられたという達成感は何にも代えがたいものです。受験を迷われている方には是非挑戦していただきたいです!



——公認会計士として働くこと

|コンサルティング業界で働く会計士へのインタビュー

① 公認会計士を目指したきっかけを教えてください。

新卒で入社した総合商社で投資先の経営分析に従事していたとき、上司から「USCPA(米国公認会計士)の資格があれば、更に活躍の機会が増えるよ」と勧められ、最初はUSCPAを目指しました。USCPAの資格取得後、ちょうど育児の時期と重なったため、会社を退職し、経営コンサルタントという肩書きで大学非常勤講師や執筆の仕事をしていました。そんな中、仕事の幅を広げるためには、日本の公認会計士の資格も必要になると考えるに至りましたので、USCPAの資格取得から10年ほど経って、日本の公認会計士試験に挑戦しました。

② コンサルティング業務に従事したきっかけを教えてください。

公認会計士試験に合格した後、個人で経営コンサルタントを続けていくよりも、組織の中にいた方が公認会計士に必要なコアスキルを基礎から身に付けられると思い、総合コンサルティングファームに転職しました。私の場合は、組織の中にいた方が、ロジカルシンキングやファシリテーション、プレゼンテーション等のスキルの向上につながったと思います。

③ 現在の業務内容について教えてください。

現在、私はコンサルティングファームのマネージャーとして、プロジェクトマネジメントに従事しています。プロジェクトには様々な内容がありますが、私の主な担当は、ガバナンスに関する規程やマニュアルの整備運用支援、IFRS(国際財務報告基準)やUSGAAP(米国会計基準)の導入支援等です。昨今、ガバナンスやIFRS等への関心が高まっている中で、クライアントに厳しい意見を申し上げるときもありますが、クライアントと真摯に向き合うことが、信頼関係を築くために最も重要なポイントであると心掛けています。

④ 現在の業務のやりがいと将来の夢(仕事に関する夢、キャリアプラン)を教えてください。

コンサルティングファームでは、クライアントへ提供したいサービスを積極的に提案していくことで、大幅な裁量を与えてもらえる環境が整っています。大きな仕事を任せてもらえる分、責任も重たいですが、常に最先端の情報に触れ、専門家としてブラッシュアップできるところをやりがいに感じています。将来は、世界の中で日本企業の企業価値を高めていくことに貢献できるような活動をしていくのが夢です。

⑤ 公認会計士を目指す方々に一言お願いいたします。

公認会計士試験の勉強を通じて得た知識や公認会計士の資格は、コンサルタントとしての発言の裏付けにもなり、自信を持って仕事ができることにつながります。また、社内外で仕事の声をかけてもらえる機会も多くなりましたので、生涯の宝といっても過言ではないと思います。ぜひ、最後までやり遂げてください。



|若手会計士へのインタビュー



① 公認会計士を目指したきっかけを教えてください。

大学を卒業後、一般事業会社に入社し、連結子会社の月次や年度決算業務、また財務デューデリジェンスの機会をいただき、もっと会社の財務面を体系的に理解し、アドバイスできるようになりたいと思ったからです。また、経済社会が発展する限り、会計は、どのような企業や国でも必要不可欠であるため、その専門性を磨くことで、自分の活躍できる環境を広げることができると考えたためです。

② 現在の業務内容について教えてください。

現在は、メディア関連の上場会社や、IPO(株式新規上場)を目指す上場準備会社の監査業務に従事しております。また、監査法人のリクルーターとして、法人や監査業務の魅力や、法人選びやキャリアについて悩んでいる就活生の相談を受ける等の業務に従事しています。

③ 現在の業務のやりがいと将来の夢(仕事に関する夢、キャリアプラン)を教えてください。

IPO分野の専門性を磨きたいと思っています。上場準備会社の中には、設立したばかりで内部管理体制が脆弱な会社もあります。ですが、「上場」という明確なゴールに向かって、経営者や経理の方と密にコミュニケーションをとれることは、公認会計士の魅力であり、やりがいを強く感じています。

また、一般就職の経験、そして資格があって就職するという経験、更にはリクルートの経験を通じて、キャリアに悩む学生の手助けをしたいと思いました。自分自身、将来のキャリアや女性の長期的な働き方という視点で沢山悩んできましたし、このようなご時世だからこそ専門性を身に付けて働くことの強み等を発信出来たらと思っています。

④ 公認会計士を目指す方々に一言お願いいたします。

公認会計士の勉強は、何と言っても量が多く、心が折れそうになることがあると思いますが、合格後のキャリアは無限の可能性に満ちています。適度に休憩し、公認会計士として働く自分の姿を想像しながら、合格に向けて突っ走ってください!心より応援しています。

お問い合わせ先

公認会計士試験について

【全 国】 公認会計士・監査審査会 事務局総務試験課		☎ 03-5251-7295	〒100-8905 東京都千代田区霞が関3-2-1 中央合同庁舎第7号館
【関 東】 関東財務局理財第1課		☎ 048-600-1117	〒330-9716 さいたま市中央区新都心1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館
【近 畿】 近畿財務局理財第1課		☎ 06-6949-6366	〒540-8550 大阪市中央区大手前4-1-76
【北海道】 北海道財務局理財課		☎ 011-709-2311	〒060-8579 札幌市北区北8条西2
【東 北】 東北財務局理財課		☎ 022-263-1111	〒980-8436 仙台市青葉区本町3-3-1
【東 海】 東海財務局理財課		☎ 052-951-1790	〒460-8521 名古屋市中区三の丸3-3-1
【北 陸】 北陸財務局理財課		☎ 076-292-7851	〒921-8508 金沢市新神田4-3-10
【中 国】 中国財務局理財課		☎ 082-221-9221	〒730-8520 広島市中区上八丁堀6-30
【四 国】 四国財務局理財課		☎ 087-811-7780	〒760-8550 高松市サンポート3-33
【熊 本】 九州財務局理財課		☎ 096-353-6351	〒860-8585 熊本市西区春日2-10-1
【福 岡】 福岡財務支局理財課		☎ 092-411-5075	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-11-1
【沖 縄】 沖縄総合事務局理財課		☎ 098-866-0092	〒900-8530 那覇市おもろまち2-1-1

公認会計士制度について

金融庁企画市場局企業開示課		☎ 03-3506-6000(代)	〒100-8967 東京都千代田区霞が関3-2-1 中央合同庁舎第7号館
---------------	---	-------------------	--

公認会計士・監査審査会 <令和5年4月発行>

Certified
Public
Accountants
and
Auditing
Oversight
Board

公認会計士試験の出願方法やQ&A等の試験に関する情報は
公認会計士・監査審査会ウェブサイトに掲載しています
<https://www.fsa.go.jp/cpaaob/index.html>

